

## 投与速度換算表【成人 ICU】

● 成人：6μg/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し(初期負荷投与)、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2～0.7μg/kg/時の範囲で持続注入する(維持投与)。

また、維持投与から開始することもできる。なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。

参考：患者体重別の時間あたりの投与量……………  
生理食塩液で最終濃度4μg/mLに希釈した場合の時間あたりの投与量(mL/時)

### ■ 初期負荷投与速度 (mL/時)

初期負荷投与速度	患者の体重 (30～60kg)			
	30kg	40kg	50kg	60kg
6μg/kg/時 (10分)*	45	60	75	90

初期負荷投与速度	患者の体重 (70～100kg)			
	70kg	80kg	90kg	100kg
6μg/kg/時 (10分)*	105	120	135	150

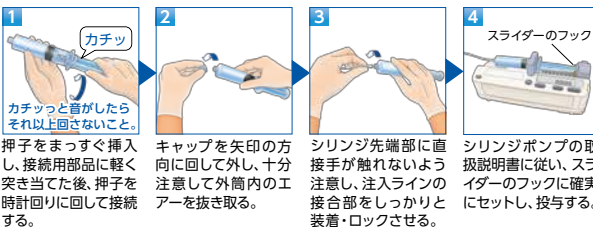
\* 初期負荷量1μg/kgを10分かけて持続静注した場合と等価による。

### ■ 維持投与速度(0.2～0.7μg/kg/時) (mL/時)

維持投与速度	患者の体重 (30～60kg)			
	30kg	40kg	50kg	60kg
0.2μg/kg/時	1.5	2.0	2.5	3.0
0.3μg/kg/時	2.3	3.0	3.8	4.5
0.4μg/kg/時	3.0	4.0	5.0	6.0
0.5μg/kg/時	3.8	5.0	6.3	7.5
0.6μg/kg/時	4.5	6.0	7.5	9.0
0.7μg/kg/時	5.2	7.0	8.7	10.5

維持投与速度	患者の体重 (70～100kg)			
	70kg	80kg	90kg	100kg
0.2μg/kg/時	3.5	4.0	4.5	5.0
0.3μg/kg/時	5.3	6.0	6.8	7.5
0.4μg/kg/時	7.0	8.0	9.0	10.0
0.5μg/kg/時	8.8	10.0	11.3	12.5
0.6μg/kg/時	10.5	12.0	13.5	15.0
0.7μg/kg/時	12.2	14.0	15.7	17.5

## プレセデックス®シリンジのセット方法



## Richmond Agitation-Sedation Scale (RASS) スコア

日本呼吸療法医学会 人工呼吸中の鎮静ガイドライン作成委員会  
「人工呼吸中の鎮静のためのガイドライン」から引用

スコア	用語	患者の状態
+4	好戦的な	明らかに好戦的な、暴力的な、スタッフに対する差し迫った危険
+3	非常に興奮した	チューブ類またはカテーテル類を自己抜去；攻撃的な
+2	興奮した	頻繁な非意図的な運動、人工呼吸器ファイティング
+1	落ち着きのない	不安で絶えずぞわぞわしている、しかし動きは攻撃的でも活発でもない
0	意識清明な 落ち着いている	
-1	傾眠状態	完全に清明ではないが、呼びかけに10秒以上の開眼及びアイ・コンタクトで応答する
-2	軽い鎮静状態	呼びかけに10秒未満のアイ・コンタクトで応答
-3	中等度鎮静状態	呼びかけに動きまたは開眼で応答するがアイ・コンタクトなし
-4	深い鎮静状態	呼びかけに無反応、しかし、身体刺激で動きまたは開眼
-5	昏睡	呼びかけにも身体刺激にも無反応

人工呼吸中の鎮静のためのガイドライン 日本呼吸療法医学会

製造販売元  
**丸石製薬株式会社**  
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2  
〔資料請求先〕  
丸石製薬株式会社 学術情報部  
TEL.0120-014-561

# Precedex®

## プレセデックス投与速度換算表

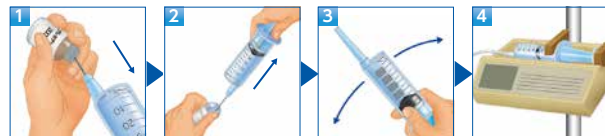
### 効能・効果 / 用法・用量

#### 【集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静】

- **【成人】**通常、成人には、デクスメドミジンを6μg/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し(初期負荷投与)、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2～0.7μg/kg/時の範囲で持続注入する(維持投与)。また、維持投与から開始することもできる。
- **【6歳以上の小児】**通常、6歳以上の小児には、デクスメドミジンを0.2μg/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2～1.0μg/kg/時の範囲で持続注入する。
- **【修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児】**通常、修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児には、デクスメドミジンを0.2μg/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2～1.4μg/kg/時の範囲で持続注入する。なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。

#### プレセデックス®パイアルの調製法

本剤2mLに生理食塩液48mLを加えて50mLとし、静かに振盪し十分に混和してください。



使用するシリンジに本剤2mL(1パイアル；200μg含有)を吸引する

薬液濃度=200μg/50mL (4μg/mL)

α<sub>2</sub>作動性鎮静剤  
劇薬、習慣性医薬品<sup>(1)</sup>、処方箋医薬品<sup>(2)</sup> 薬価基準収載  
**プレセデックス®**  
静注液200μg[マルシン]  
静注液200μg/50mL  
シリンジ[マルシン]

<デクスメドミジン塩酸塩> Precedex®  
注1) 注意-習慣性あり 注2) 注意-薬師等の処方箋により使用する可

◆プレセデックスの詳細については、製品添付文書をご参照ください。

2018年11月作成  
ツール：110650 TP  
201811 10,000 RX

## 投与速度換算表【小児 ICU】

● **[6歳以上の小児]**通常、6歳以上の小児には、デクスメトミジンを0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.0 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の範囲で持続注入する。

なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。

● **[修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児]**通常、修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児には、デクスメトミジンを0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の範囲で持続注入する。

なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。

### 参考：患者体重別の時間あたりの投与量の例

生理食塩液で最終濃度4 $\mu\text{g}/\text{mL}$ に希釈した場合の時間あたりの投与量 (mL/時)

■ **6歳以上の小児：**  
投与速度 (0.2~1.0 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ ) (mL/時)

投与速度	患者の体重 (15~70kg)												
	15kg	20kg	25kg	30kg	35kg	40kg	45kg	50kg	55kg	60kg	65kg	70kg	
0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ *	0.8	1.0	1.3	1.5	1.8	2.0	2.3	2.5	2.8	3.0	3.3	3.5	
0.3 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	1.1	1.5	1.9	2.3	2.6	3.0	3.4	3.8	4.1	4.5	4.9	5.3	
0.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	
0.5 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	1.9	2.5	3.1	3.8	4.4	5.0	5.6	6.3	6.9	7.5	8.1	8.8	
0.6 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	2.3	3.0	3.8	4.5	5.3	6.0	6.8	7.5	8.3	9.0	9.8	10.5	
0.7 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	2.6	3.5	4.4	5.3	6.1	7.0	7.9	8.8	9.6	10.5	11.4	12.3	
0.8 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	
0.9 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	3.4	4.5	5.6	6.8	7.9	9.0	10.1	11.3	12.4	13.5	14.6	15.8	
1.0 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	3.7	5.0	6.2	7.5	8.7	10.0	11.3	12.5	13.8	15.0	16.3	17.5	

\*投与開始時は、0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の投与速度で静脈内へ持続注入してください。

## 小児 ICU 患者へ投与する際の注意点

- 小児の集中治療に十分な知識・経験をもつ医師のもとでご使用ください。
- 血圧、心拍および呼吸の嚴重なモニタリングが可能な状況でご使用ください。
- 小児と成人の用法・用量は異なります。小児では初期負荷投与は行わないでください。
- 投与開始時は、0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ の投与速度で静脈内へ持続注入してください。
- 投与速度を増加する場合、0.1 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ あるいはそれ以上の増加が可能です。上昇幅0.1 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ あたり3~4分あるいはそれ以上の時間で緩やかに調節してください。
- 6歳以上の小児に対する投与速度の上限は1.0 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ です。
- 修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児に対する投与速度の上限は1.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ です。
- 局所麻酔下における非挿管での手術および処置時の鎮静において、18歳未満の患者に対する安全性および有効性は確立していません (使用経験が少ない)。
- 急速静注、単回急速投与等、通常の用法・用量以外の方法で本剤を投与した場合に重篤な徐脈、洞停止等があらわれたとの報告があるので、定められた用法・用量に従い、緩やかに持続注入してください。

■ **修正在胎 (在胎週数+出生後週数) 45週以上6歳未満の小児：**  
投与速度 (0.2~1.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ ) (mL/時)

投与速度	患者の体重 (3~20kg)											
	3kg	4kg	5kg	6kg	7kg	8kg	9kg	10kg	15kg	20kg		
0.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$ *	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.8	1.0		
0.3 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.2	0.3	0.4	0.5	0.5	0.6	0.7	0.8	1.1	1.5		
0.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.5	2.0		
0.5 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.4	0.5	0.6	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.9	2.5		
0.6 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.5	0.6	0.8	0.9	1.1	1.2	1.4	1.5	2.3	3.0		
0.7 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.5	0.7	0.9	1.1	1.2	1.4	1.6	1.8	2.6	3.5		
0.8 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0	3.0	4.0		
0.9 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.7	0.9	1.1	1.4	1.6	1.8	2.0	2.3	3.4	4.5		
1.0 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.8	1.0	1.3	1.5	1.8	2.0	2.3	2.5	3.8	5.0		
1.1 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.8	1.1	1.4	1.7	1.9	2.2	2.5	2.8	4.1	5.5		
1.2 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	0.9	1.2	1.5	1.8	2.1	2.4	2.7	3.0	4.5	6.0		
1.3 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	1.0	1.3	1.6	2.0	2.3	2.6	2.9	3.3	4.9	6.5		
1.4 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{時}$	1.0	1.4	1.7	2.1	2.4	2.8	3.1	3.5	5.2	7.0		

## State Behavioral Scale (SBS) 小児の鎮静評価

-3	反応なし	自発的な呼吸努力がみられない
		咳をしない、もしくは吸引時のみ咳き込む
-2	侵害刺激に反応	侵害刺激に反応しない
		ケア提供者に注意を向けることができない
		[侵害刺激を含む]いかなる処置にも苦痛を示さない
		動かない
-1	やさしいタッチもしくは声に反応	自発呼吸だが、まだサポートされた呼吸である
		吸引/体位変換時に咳き込む
		侵害刺激に対し反応がみられる
		ケア提供者に注意を向けることができない
		侵害的な処置を嫌がりそう
		動かない/時折四肢を動かす、もしくは体をずらす
0	おとなしくしていることができる	自発呼吸だが、サポートされない呼吸は無効である
		吸引/体位変換により咳き込む
		タッチ/声に反応する
		注意を払うことができるが、刺激をやめると眠ってしまう
		処置に苦痛を示す
		刺激をやめ、慰めるようなタッチや呼びかけを行うと落ち着くことができる
		時折四肢を動かす、もしくは体をずらす
		自発呼吸で有効な呼吸をしている
		体位変換時に咳き込む/時々自発的に咳き込む
		声に反応する/外的な刺激なしで反応する
ケア提供者に自発的に注意を向ける		
1	落ち着きがなく、おとなしくしていることが難しい	処置を嫌がる
		刺激をやめ、慰めるようなタッチや呼びかけを行うと落ち着くことができる
		時折四肢を動かす、もしくは体をずらす/体動が増加する (落ち着がない、もぞもぞとしている)
		自発呼吸で有効な呼吸をしている/人工呼吸器での呼吸が困難である
		時折、自発的に咳き込む
		声に反応する/外的な刺激なしで反応する
2	不穏	いつの間にか寝入る/ケア提供者に自発的に注意を向ける安全でない行動が時々ある
		5分間試しても、相変わらずおとなしくすることができない/なだめることができない
		体動の増加 (おちつきがない、もぞもぞとしている)
		人工呼吸器での呼吸は困難であるかもしれない
		自発的に咳き込んでいる
		反応するために外的な刺激を必要としない
ケア提供者に自発的に注意を向ける		
安全ではない (ETTを噛む、ラインを引っばる、一人にできない)		
なだめることができない		
体動の増加 (落ち着がない、もぞもぞとしているまたは左右にたうち回る、足をばたつかせる)		